

# Taiko Matsuo

## Portfolio

2019.4

# Taiko Matsuo Portfolio

## About Me

Japanese artist

WebSite : [www.taikomatsuo.com](http://www.taikomatsuo.com)

E-mail : [taikomatsuo@gmail.com](mailto:taikomatsuo@gmail.com)

Instagram : [taikomatsuo](https://www.instagram.com/taikomatsuo)

Facebook : [taiko.matsuo.1](https://www.facebook.com/taiko.matsuo.1)

Mobile : + 81 80-5069-0912

Born in Hiroshima.

Received 'Seiichi Suzuki Award' at the 16th annual "The Choice Awards" .

Live in Tokyo.

Main works are painting, art work for advertisement, book, Product package, etc.

Work include picture books "Sora Ga Takakatta Koro" (meaning "when the sky was high" ), collaborathios with Mitsuyo Kakuta "Presents" and "Nakushita Mono Tachi no Kuni" (meaning" Country of Forgotten Things" ).

She has designed over 300 books, and is active in many media such as illustrations for various advertisements, magazines,fashion lines, presenting works for museum shops in Roppongi Hills and Shanghai Hills to mane a few.

Taiko is popular overseas as an artist to represent Asisa.

## About Paintings

私たちの生きている世界は、さまざまな色、さまざまな層の積み重なりから成り立っています。色を少しづつめくっていけば、ひょっとしたら自分が経験した別の人生がそこにあったかもしれません。

あるいは私たちが生まれなかったかもしれない、もっと特別な異世界。

さまざまな色をめくっていけば、そういう異世界も私たちの目の前に立ち上がってくる。

私はその先に見えるものを描きたいと思っています。

世界は単色ではなく、空は青だけではなく、花は赤だけではなく、よく見ると、その単色の中に隠されているレイヤーごとのさまざまな色が見えてきます。

私たちの生は、いくつもの色から成り立っています。

薄い膜を何枚も何枚も重ねていって、気がつけばその重なり具合に気がつかないほどに。

美しい自然の薄い皮の下には、厳しい自然が。

明るい都市生活の薄い皮膜のような層の下には、別の層が。

色をめくっていけば、さまざまな異質さが実は同居していることがわかるのです。

美しい海と、禍々しい海。

人のまごころと、人の裏切り。

リアルに見える世界と、リアルではない異世界。

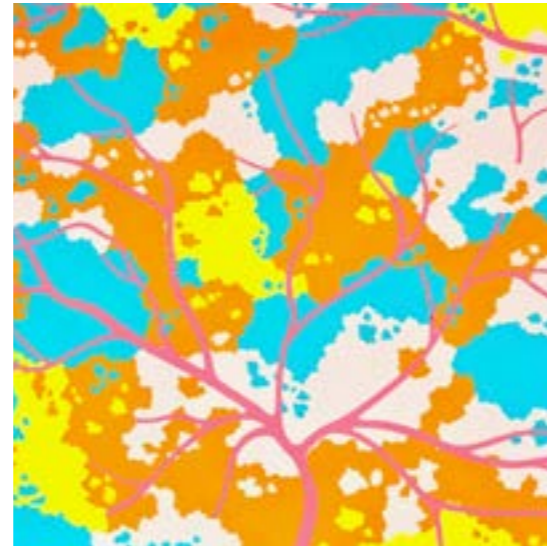
希望に満ちた道と、終末へと向かう黙示録。

でも私はどこかに少しでもある希望の色を見つけて、そんな世界の色を一枚一枚、小さな絵筆でていねいにはぎとって、紙の上に並べていきたいのです。

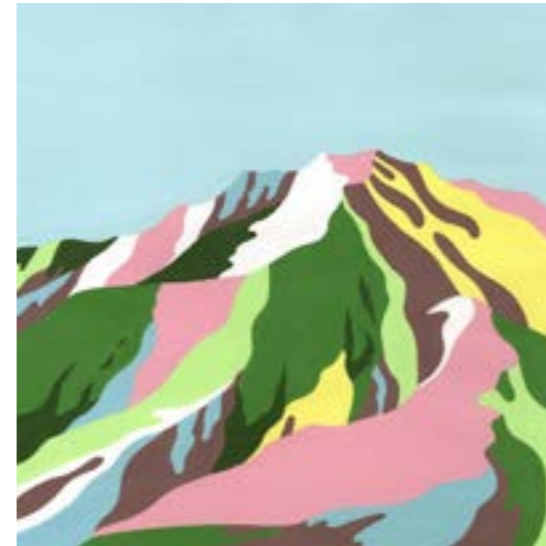
# Paintings



Gentle breeze #15  
500 × 500mm acrylic canvas



Gentle breeze #4  
500 × 500mm acrylic canvas



Mountain  
297 × 297mm acrylic watercolors paper



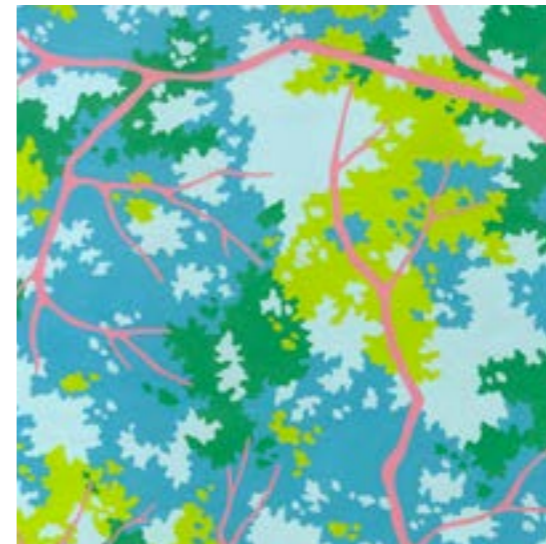
Full moon  
420 × 297mm acrylic watercolors paper



Gentle breeze #10  
500 × 500mm acrylic canvas



Tree of my memory  
420 × 297mm acrylic watercolors paper



Through the trees  
420 × 297mm acrylic watercolors paper



Fountain  
420 × 297mm acrylic watercolors paper



I love dogs #1  
530 × 455mm acrylic canvas



I love dogs #2  
333 × 242mm acrylic canvas



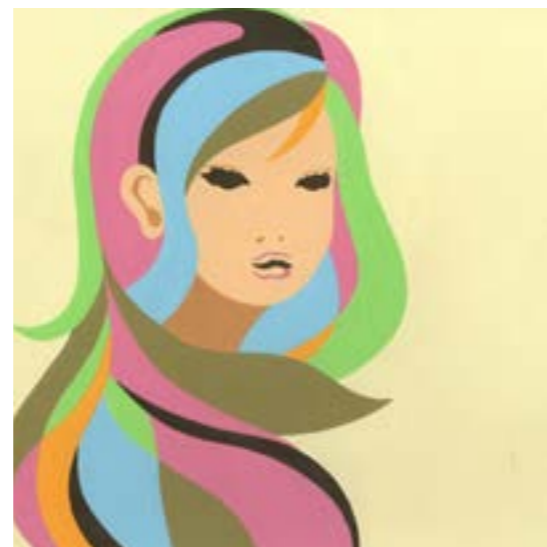
Bulldog  
300 × 300mm acrylic watercolors paper



Goldfish  
333 × 242mm acrylic canvas



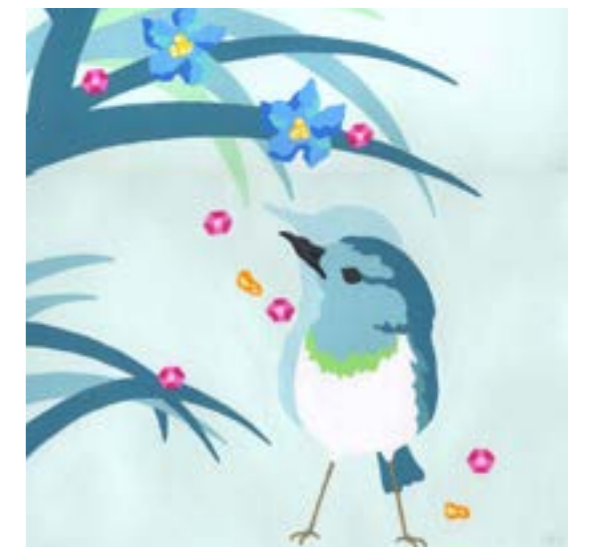
Childhood  
180 × 140mm acrylic canvas



Woman #1  
420 × 297mm acrylic watercolors paper



Good friends  
364 × 515mm acrylic watercolors paper



Blue bird  
420 × 297mm acrylic watercolors paper

# ETERNAL HAPPINESS

深く濃い山脈、変幻自在な景色の海岸、いたるところに湧き出る清水。

福井はまさに神の領域です。

北陸路の西端という大都市から離れた立地が、この神秘性を生き続けさせているのかもしれない。

この土地には平安時代から続く越前焼という古い陶器があり、「中世六古窯」のひとつにも数えられています。

素朴なおおらかさは、古代の人々の息づかいを感じさせます。

私は十年以上前からこの土地を愛するようになり、地元にとどまって生きる人たちと親交を重ねてきました。

福井の自然と人々との交流から私の陶芸は生まれ、2014年にはアトリエも構えました。

都会に生きる私が創ってきた平面作品は、都会的でエターナルな作風と評価されてきました。

私の陶芸作品はこの作風に、プリミティブな素朴さを重ね合わせ、

「土」「水」「空気」「火」という自然のイメージを込めています。

そのコンセプトは、ETERNAL HAPPINESS（色あせない幸せ）。

手に取っていただいたかたがたの人生に、色あせない幸せをもたらす存在でありたい。

そんな願いをこめて制作をつづけています。

# About Ceramics

東日本大震災の後から、私は伊勢神宮や出雲大社などを訪れ、その風景を描くようになりました。

さまざまな神話や歴史を学び、それらを紹介する本を何冊か出版もしています。

こどものころから慣れ親しんでいたはずの神社やお寺に、学びの中から新たな魅力を見つけ、そして自分が心惹かれ美しいと思うものは憧れてきた遠い外国にだけあるのではなく、自分の足もとにしっかりと存在しているのだ――。そう気づかされました。

私が特に惹かれてきたのは、縄文土器と狛犬。

一万年以上も続いた縄文時代。

その中で作られてきた縄文土器は、長い歴史と推移を持っています。

火をつかった料理や盛り付けなど、最初は実用のためにつくられていた縄文土器は、しだいに装飾性の強い芸術へと進化していきます。

特に祭りごとに使われたものは、多種多様な形状と模様を誇ります。

燃え上がる炎、力強いうねり、縄や櫛の歯で付けたとされるダイナミックな図柄。

プリミティブなのにどこか気品も漂い、見る人を飽きさせない表情。

その自由な造形とアイデアに、私は心奪われました。

この力強いプリミティブさと華やかさを、自分でもつくることができなだろうか。

そう考えて縄文土器のつくり方を学び、再現するところから私の取り組みははじまりました。

越前の土から作られた粘土をひも状にし、積み上げていく。

土にじかに手を触れ、形が現れていく。

自分の手の中に自然があり、その自然が私の手によって再び生命を燃やしはじめる。

そのような心象風景が自分の中に湧き上がり、そこから動物や植物の新しいイメージが現れてきました。

# Ceramic1 ~Flowers & Mushrooms~

花にもきのこにも、おびただしい種類と形、色があります。  
 誰もが「美しい」と感じるものもあれば、不気味なものもある。  
 美味しく食べられるものもあれば、有毒なものもある。  
 道端にそっとたたくみ、ほとんど誰にも気づかれないものもあります。  
 そういう有りさまは、まるで人間社会の営みのよう。  
 人生に起きるできごと、時に楽しいときもあれば苦痛もあり、しかし苦痛はときにチャンスに転じることもあります。  
 「正しい」と思っていたことが、実はマイナスにつながってしまうことだって。



Fantastic afternoon #3 130 × 130 × 70mm 686g



いま私たちの生きている時代は、かつてないほどの早さで変化しています。テクノロジーも経済も変わり、それだけではなく私たちの考えや生き方も変わっていています。二十世紀のころと比べると、私たちの世界観はずいぶん変わってきたのではないのでしょうか。この変化は、これからも続いていくでしょう。  
 その中で、力強く生きていくというスタンスだけを変わずに持ち続けたい。  
 その力強さの源泉を、私は「花」や「きのこ」に求め、それを手の中から生み出そうと考えました。  
 手を動かしていると、私の中でどんどん新しい植物たちが生まれていきます。  
 手作りだから、ひとつひとつ形が違う。それもまた、まるで私たち人間のようです。



Fantastic afternoon #5 130 × 130 × 90mm 473g



In bright sunshine #4  
 130 × 130 × 80mm 448g



Fantastic afternoon #1  
 130 × 230 × 50mm 712g



Fantastic afternoon #4 200 × 200 × 50mm 702g





Under the shade of a tree #10 145 × 145 × 165mm 991g



Under the shade of a tree #5 140 × 140 × 125mm 876g



Under the shade of a tree #1 150 × 150 × 130mm 902g



Under the shade of a tree #3 140 × 140 × 125mm 825g



# Ceramic2 ~Animals~

日本のプリミティブな太古の文化には、動物の造形がたくさん存在します。  
 縄文後期にたくさん作られた土偶。人間や精霊だけでなく、猪や熊などの動物を造形した土偶も多いのです。  
 プリミティブだけど普遍的な可愛さが秘められている動物土偶。  
 神社の狛犬。獅子や犬に似た想像上の生き物とされ、神社やお寺の参道に一对が向き合う形で置かれています。  
 沖縄の方言で獅子を意味するシーサー。  
 これも家の屋根や玄関に一对で向き合う形で置かれます。  
 狛犬もシーサーも魔除けの役割をにない、土地や建物やそこに住む人を守ってくれるのです。



Basket of the cheetah  
 135 × 135 × 170mm 459g



Happy horse 110 × 65 × 35mm 200g



Happy bird 80 × 60 × 35mm 150g



Brave tiger 100 × 100 × 65mm 200g

そのような存在である彼らを、私が心の中に持っているイメージでふくらませて行ったらー。  
 わたしは動物好きの友人たちを思い浮かべました。  
 猫派の人もいれば、犬派の人もいる。同じ犬好きでも、雄々しい大型犬を好む人もいれば、愛らしい小型犬派もいる。  
 うさぎが好きな友人もいる。  
 彼らを守ってあげられる動物を造形できたらと考え、人々を見守る「招福シーサー」をつくりました。



The Shisa as brings happiness #1 120 × 80 × 130mm 750g (one)



The Shisa as brings happiness #2 90 × 90 × 120mm 850g (one)





# Solo Exhibition

2018

"in the forest" (Roppongi hills A/D Gallery, Tokyo)

2017

"VIVA! Hiroshima" (Oriental Design Gallery, Hiroshima)

2016

"Fuku-uma Fuku-tori" (Gallery Speak For, Tokyo)

2015

"ETERNAL HAPPINESS" (Haden books, Tokyo)

2012

"Books love illustration" (Daikanyama T-SITE, Tokyo)

"Taiko Matsuo Layered" (Oriental Design Gallery, Tokyo)

2011

"Layered" (POLA MUSEUM ANNEX, Tokyo)

2010

"My life with a DOG" (Gallery Speak For, Tokyo)

2008

"Parallel World" (Gallery Speak For, Tokyo)

2006

"Be Happy Xmas" (Shibuya PARCO LOGOS Gallery, Tokyo)

"Kunpu" (Idaten Gallery, Tokyo)

2004

"Furimuku" (Space Yui, Tokyo)

2003

"I love her I love him" (Shibuya Bunkamura LOGOS Gallery, Tokyo)

2001

"Holiay" (Space Yui, Tokyo)

1998

"SCENERY" (Gallery ROCKET, Tokyo)

